

視 察 報 告 書

1 視察日

令和7年10月7日から10月8日まで

2 視察先

令和7年10月7日（火）香川県三豊市立高瀬中学校夜間学級
令和7年10月8日（水）香川県三豊市バイオマス資源化センター
みとよ

3 調査項目

- ・夜間学級について
- ・日本初のゴミのリサイクル技術について

4 視察参加者（4名）

染谷和博、落合信太郎、久保田真澄、古谷貴子

5 別紙のとおり

6 別紙のとおり

上記のとおり報告します。

取手市議会議長 山野井 隆 殿

令和7年11月10日

取手市議会会派公明党 代表者 染谷 和博

茨城県取手市議会会派「取手市議会 公明党」

視察研修行程表

※香川県内は、レンタカー（1台）で移動

○10月7日（火）

JAL479 便

取手駅……………品川駅……………羽田空港……………高松空港……………
11：15 発 12：35 着

……………三豊市立高瀬中学校視察研修……………宿泊地

○三豊市高瀬中学校職員及び同市議会事務局

住所：香川県三豊市高瀬町下勝間 2725 番地 1

電話：0875-72-3161

※研修事項

三豊市高瀬中学校夜間学級について

【宿 泊】

オークラホテル丸亀

住所：香川県丸亀市富士見町 3-3-50

電話：0877-23-2222

○10月8日（水）

宿泊地……………三豊市「バイオマス資源化センターみとよ」……………
9：00～11：00

JAL482 便
…………高松空港…………羽田空港…………品川駅…………取手駅
15：25 発 16：45 着

○視察研修場所：株式会社エコマスター
香川県三豊市山本町神田 30-1
電話：0875-23-6230

○三豊市議会事務局
住所：香川県高瀬町 2373-1
電話：0875-73-3009

取手市議会公明党 代表 染谷 和博

行政視察報告書

取手市議会議員 落合 信太郎

- 1 視察日
令和7年10月7日(火)
- 2 視察先
香川県三豊市高瀬中学校
- 3 調査項目
・夜間学級について
- 4 視察内容
三豊市における公立夜間中学校について
視察受入担当
三豊市立高瀬中学校 校長 夜間学級教頭
三豊市教育委員会事務局 学校教育課他

背景と現状

- 1 夜間学級について
 - ・様々な理由により義務教育を修了できなかった者、不登校などの理由で十分に学校に通うことができなかつた者、外国籍で言葉の壁のために思うように学習できなかった者など、学び直しを求めている者を対象として、同市は2022年4月に開設。2025年4月には、10～40歳代の3名が入学し、3学年合わせて10名の在籍となっている。また、同校は夜間中学で学齢期の生徒の受け入れを行う不登校特例校(学びの多様化学校)として、2022年3月に全国で初めての指定を受けた。
- 2 経営方針
 - ・生徒の多様性を生かした学びなどの支援(教育相談、生活支援、日本語指導等)
- 3 生徒・教職員(2025年5月現在)

- ・生徒数 10 名、学齢期 2 名、10 代から 50 代が 8 名
（市内 3 名、市外 7 名）
- ・教職員構成 教職員 15 名
内訳：校長、教頭、常勤：5 名、市費講師 1 名、非常勤講師 5 名
養護助教諭：1 名、学校事務：1 名

質問事項

- 入学ニーズの傾向について（高年齢・若者世代・外国籍層）また、人権課多文化共生係との連携はありますか？
- ・三豊市国際交流協会や外国語版パンフレットを作成し、対象となる方やその周りの方々に届く情報提供を進めている。
- 教師人材の確保について
人材の確保は厳しい状況。
- 生徒が継続して学校生活を送ることのできる環境に配慮について
・経済的、就労支援についての課題はどのような事があるか？生徒の特性や不登校に至った事情がそれぞれ大きく異なるうえに、能力差も大きいいため、個々に合わせた指導がより必要。成人の生徒に対する生徒指導や教育相談の対応が難しい。
- 入学時期、編入学対応の状況について
・4 月を体験期間（一か月以上）とし、転入までに 3 回以上の面談を行う。期間中は生徒がコースを変更することができる。学齢期生徒の転入に伴い、個々の生徒に十分に対応する個別指導や進学に向けた指導が課題としてある。

授業風景は大変明るく、生徒さんのはのびのびと学習されているのが印象的でした。なにより、校長先生はじめ教職員の皆さんの夜間学級にかける情熱を感じました。現状教員の確保と育成が難しい状況が課題としてある。財政的、人材確保と課題はあるものの、必要性を強くし、取手市でも夜間学級の取り組みを推進していきたい。

以上

行政視察報告書

取手市議会議員 久保田真澄

1 視察日

令和7年10月8日（水）

2 視察先

香川県「バイオマス資源化センターみとよ」

3 調査項目

日本初の好気性発酵乾燥方式によるリサイクルの仕組み

4 視察内容

（好気性発酵乾燥方式の特徴）

- ・リサイクル→ 燃やせるごみ（混合ごみ）を発酵乾燥させることによりリサイクルが可能に。コンクリートの密閉発酵槽で発酵作用が最も活発になる好気的な環境をシステムが自動制御し効率的・確実な発酵による処理が行われる。17日間の発酵・乾燥が行われ、生ごみが分解、紙・プラスチック類が乾燥する。（微生物が発酵する際の熱と通気を利用して乾燥処理を行う。破碎機や選別機のような機械と微生物による発酵を使い処理。）発酵・乾燥が終わったものは三種に選別。（1. 生ごみが分解された細かいもの 2. 木くずのような大きく重いもの 3. 紙やプラスチックのような比較的軽いもの）三種選別機で選別された紙やプラスチックは、塩ビ選別が行われる。赤外線を用いて瞬時に塩ビを判別、エア噴射により分離する。ベラーで圧縮梱包し搬出。エビス紙料株式会社および株式会社パブリックで混合・成型が行われ固形燃料に。有価物として取引され石炭の代わりとして使用される。
- ・環境→ バイオフィルターで臭気を脱臭。これにより臭気が外に漏れ出ることを防ぐ。場内の汚れた水は発酵槽内で消費するため排水は発生しない。好気性発酵乾燥方式は二酸化炭素の排出を削減。煙やダイオキシン類が発生しない。

- ・運用→複雑な設備等を要しないためイニシャルコストが安価。運転に必要な人員も少なくランニングコストも抑えることができる。好気性発酵乾燥方式は駆動部が少なく発酵槽内は攪拌を行わないので切り替えしの装置はない。また、ファンやモーターについて予備品を在庫する事により素早い事故対応が可能となる。微生物の力で燃やせるごみをエネルギーに再資源化。好気性発酵乾燥方式で、6200トンのCO₂を削減、これまで焼却により排出されていたCO₂が4000トン削減。全体で年間10200トンのCO₂が削減されている。

以上、三豊市の視察報告とします。